



平成29年7月18日（火）岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
畜産研究所	飛騨牛研究部	向島・高原	直通 0577-68-2226 F A X 0577-68-2227
農政課	農業研究推進係	神尾・傍島	内線 2804 直通 058-272-8415 F A X 058-278-2680

飛騨牛ブランドを支える 新たな種雄牛「孝隆平」について

県畜産研究所では、生産者、関係団体、市町村の協力のもと、「飛騨牛」ブランドを支える種雄牛*¹づくりに取り組んでいます。

このたび、「飛騨牛」の祖「安福」の血を引き継ぐ「孝隆平」の能力検定*²が終了し、県内歴代最高の肉質能力を有することが判明しました。

また、今年9月7日から11日に、5年ぶりに開催される「第11回全国和牛能力共進会宮城大会」に、「孝隆平」の産子*³が肉牛の部で日本一を目指して出場することとなり、今後、主力種雄牛としての活躍が期待されます。

記

1 育成経過

- 平成22年に、当時、「安福」の孫でトップ種雄牛であった「白清85の3（H11~28）」の後継牛を育成するため、県下の繁殖雌牛^{めすうし}100頭と「白清85の3」を交配。
- このうち、高山市の農家保有の繁殖雌牛「さむらい」に交配し生まれた産子（「孝隆平」と命名）が、平成25年に種雄牛候補3頭のうちの1頭に選抜され、県下繁殖雌牛への交配を行い、能力検定を開始
- 平成29年春までに「孝隆平」を父親とする産子27頭の肉質を調査した結果、極めて高い評価が得られ、優れた肉質能力を有することが判明

2 「孝隆平」産子の特徴

- 枝肉取引で最も重要視される肉質形質の「脂肪交雑*⁴（霜降り具合）」と高級部位のロース芯面積がいずれも県内歴代最高の成績

3 今後の予定

- 今後、生産者の需要に応じて順次交配が行われ、その肉が本格的に市場へ出回るのは3年後を見込む。

<「孝隆平」の能力検定結果と他の基幹種雄牛との比較>

主な 基幹種雄牛	能力検定 終了年度	脂肪交雑 (霜降り具合)	ロース芯面積 (cm ²)	枝肉重量 (kg)
孝隆平	H 2 9	9 . 1 (歴代第 1 位)	6 2 . 0 (歴代第 1 位)	4 6 3 . 8 (歴代第 5 位)
花清光	H 2 8	8 . 4	5 6 . 5	4 6 2 . 6
花清勝	H 2 6	8 . 3	5 4 . 5	4 2 7 . 2
花福桜	H 2 6	8 . 3	5 9 . 9	4 5 3 . 5
白清 8 5 の 3	H 1 6	6 . 8	5 3 . 4	4 0 2 . 8

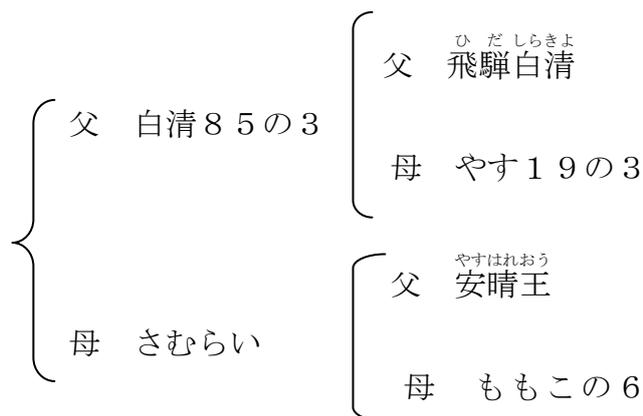
脂 肪 交 雑：牛枝肉取引規格（公益社団法人日本食肉格付協会）に基づく、霜降り具合を（B.M.S.ナンバー）を表す12段階の指標値【1（少ない）～12（多い）】

ロース芯面積：高級部位のロース肉がどれだけ採れるかの指標となる面積

枝 肉 重 量：牛（生体）から頭、皮、内臓等を取り去った後の重量

<「孝隆平」のプロフィール>

- ・生年月日 平成23年8月10日
- ・所有者 県畜産研究所
- ・生産者 岐阜県高山市（株）拳こぶし（代表者 伊藤 善明いとう よしあき 氏）
- ・血 統



※「孝隆平」は、「安福」のひ孫牛にあたる。

* 1 種雄牛について

飛驒牛生産のために育成された優秀な肉質能力を有する雄牛。県の改良方針に基づき計画的に生産される雄牛の中から、畜産研究所で実施する調査、能力検定等を経て選抜される。

* 2 能力検定について

種雄牛候補と繁殖雌牛との交配により生まれた産子の枝肉成績（脂肪交雑、枝肉重量、ロース芯面積など）をもとに遺伝的な能力を判定する、全国和牛登録協会が定める「現場後代検定法」に基づき実施。

* 3 産子について

雄牛と雌牛との交配により生まれた牛

* 4 脂肪交雑（霜降り具合）について

脂肪組織が、筋肉全体に不規則な網目状に沈着する状態。和牛肉の脂肪は優れた芳香とうま味を持っており、味や食感を引き立たせる。牛枝肉取引規格に基づく5段階の肉質等級判定で最も重要視される形質。